

タケちゃんとやまさんの

渡りゆくタカを識別する

Text&Photo 三浦半島渡り鳥連絡会

「あざ笑うタカたち（前編）」

いよいよタカの渡りのシーズンがやってきました。でもタカの識別って難しいですよね。今回は、タカの渡りの観察を始めて3年目のタケちゃんが、渡りのシーズン直前にベテランのやまさんのところを訪れ、飛んでいるタカの識別についてお話を聞いてきました。

タケちゃん：空も秋っぽくなってきました。いよいよ、渡りのシーズンインですね。

やまさん：9月に入ると毎年なんだかそわそわしてくるよ。

タケちゃん：今年はどうな渡りが見られるか楽しみなんですけど、それにしても飛んでるタカの識別って難しいですよね。

やまさん：そうだね。決して簡単ではないね。はっきり言って難しいよ！例えば同じく識別に注意することが多いシギチなんかだと、地上で動き回って採餌していても識別点をじっくり時間かけて観察できるけど、空を飛んでいくタカたちの場合はそうはいかないからね。

タケちゃん：動いているものを双眼鏡はもちろん望遠鏡で追いかけていかなければならないし、しかもだいたい逆光で図鑑のイラストの通りに見えることはまずないですもんね！

やまさん：それに広い空を背景に飛んでいるから大きさを比較できるようなモノサシが周りになくて大きさがつかみにくいでしょ。秋にはそれぞれの種類の幼鳥も混じるし、ハチクマのように個体によって様々なバリエーションもあるから、ますます頭の中が混乱してくると思うよ。

タケちゃん：いやー、観察するたびに混乱してきますよ（苦笑）

<イメージトレーニングしておこう>

やまさん：これまで神奈川県で記録されてるタカやハヤブサの仲間は20種類くらいだけど、秋の渡りの時期に割と普通に観察される種類って何種類くらい知ってる？

タケちゃん：えーっと、サシバ、ハチクマ、ノスリ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、あとミサゴくらい。それで10種ですか？

やまさん：だいぶ勉強してきたねえ。まずはその10種類の識別点を大雑把に把握した上で、写真を多用したワシタカ図鑑などで飛翔形を予習しておくといいよ。しかも、できるだけ多くの写真を見て、同じ種類の中でも様々な個体バリエーションや飛翔形の違いがあることを把握しておきたいね。

タケちゃん：そうやって何となくでも雰囲気をつかんでおくと、実際に役立つかもしれませんね。それ以外に出る可能性のあるタカっているんですか？

やまさん：アカハラダカやチュウビ類、コチョウゲンボウとかかな。もっとびっくりするようなタカが出るかもしれないよ！

<トビをなめんなよ>

タケちゃん：定点から観察してると、周りをトビがいっぱい飛んでて紛らわしいですよね。

やまさん：「なんだ、トビかぁー」って？僕もよくあるけど、あんまりトビを邪魔者扱いしちゃダメだよ。神奈川県ではもっとも普通に見られるタカだけに、長く先の角張った尾や回転時の大きめの回転半径といったトビの特徴をしっかりと把握しておきたいね。定点から遠くを飛んでいるトビ

の様々な姿勢や行動を頭に入れておけば、「さっき見たトビより小さく見えるぞ」てなみたいに「トビではないタカ」に気付く最初の手がかりとなるはずだからね。

タケちゃん：なるほどー。そう言われると、初列風切が換羽中の個体や急いで飛んでいく個体など別のタカと間違いそうになったことって何回もありました。

やまさん：その反対に、油断して「あれも、トビだろうな」って思ったけど念のため見たらチュウヒだったことがあったよ。

タケちゃん：ゲゲッ！ チュウヒ・・・、
今年は改めてトビさんをよく観察します（苦笑）。



空飛ぶトビ

< 上達のコツと定点で最低 10 年 >

タケちゃん：タカを難なく識別できるようになるには何年くらい修行すればいいですか。

やまさん：最低 5 ~ 10 年はフィールドで様々な経験を積む必要があるだろうね。

タケちゃん：10 年ですか・・・。

やまさん：手っ取り早く上達したいのであれば、愛知の伊良湖岬とか長野の白樺峠などのいわゆる渡りの名所で短期集中的に色々なタカをしかも数多く見るといいよ。例えば、神奈川県を観察地でツミが飛んでいて識別点を教えてもらったとするでしょ。次に飛んでくるツミの時には自分で識別してやろうと意気込むけど、その日に飛んだのはさっきのが最後に翌週に再度飛んだ時は、「あれ、どんな特徴だったけな？」と忘れてしまって効果的に復習できないことがあるからね。だから、一日にたくさん見るメリットは大きいよ。

タケちゃん：何回か名所で渡りを体験して、地元に戻って腰を据えて観察したいですね。

やまさん：よりたくさん経験を積むことが遠回りでも上達の近道だから、それにはやっぱり近所にお気に入りの定点があるとベストだよ。

タケちゃん：同じ場所から様々な条件のもとで繰り返しタカを見つげるといろいろなことがわかってくるかもしれませんね。

やまさん：渡る条件は季節や天気、風や視界などに左右されるから、そうした渡りの傾向というものもわかるようになってくる。タカの識別も気がいたら自然に身につけるかもしれないよ。

タケちゃん：だといいですけど。

やまさん：経験を積んだベテランでも識別に悩まされるのはよくあることらしいから、10 年はかかると思って気長に楽しみながら観察しようよ。じゃあ、武山行ってみようか？

（後編につづく）

（日本野鳥の会神奈川支部報「はばたき」No.400「渡りゆくタカを識別する」を改変）

（参考資料）

図鑑日本のワシタカ類．森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男．文一総合出版
神奈川猛禽類レポート．神奈川野生生物研究会．夢書房

2005.09 (C)三浦半島渡り鳥連絡会